

1 取組名称

反転授業によって学生の自己調整力向上を支援する取組

2 取組対象科目

基礎ゼミナール (A0421)

3 取組実施代表者名

大学教育センター・教授・松田 岳士

4 取組年度期間

2021 年度 (1 年間)

5 取組の概要

新型コロナウイルスの感染拡大によってオンライン授業が急増し、オンライン教育の質保証の問題が提起されたばかりでなく、「コロナ後」における ICT 活用教育のあり方も課題となっている。本取組は、これらの課題解決のため、以下の 3 点を解決すべき課題と想定した授業改善と、その成果普及を目的とする。

課題 1. 学生の積極性、自律性を高める反転授業のポイント明確化

課題 2. 教員に大きな負荷をかけない反転授業の方法

課題 3. コロナ後、対面授業が本格的に再開した際の ICT 活用教育のモデルケース不足の解消

6 事後評価の総合評定

3. 9 ※審査会 (教育担当副学長及び部局長構成) の審査員が行った 5 段階評価 (5 ~ 1) の平均点

7 事後評価に関する審査会での主な意見

- 教員に大きな負荷をかけない形で反転授業を設計し、学生の自己調整力を高めるというプロジェクトの基本理念自体が非常に好ましいものであるし、所期の目標を十分に達成したものと評価できる。「学習計画」、「学習中の動機づけおよび学習後の内省」にまつわる指摘も非常に具体的であり、汎用性を持つと考える。
- 学生に学習計画をたてることを習慣づけ、授業外学習を定着させる試みを入学時の授業で行う点は優れている。単に学習するだけでなく、学習環境の大切さを強調している点も良い。さらに、「受講計画を入力しないと受講できない」システムのようにある程度の「強制力」をもたせている点も良い。
- 計画時に計画されていた支援終了後の構想として、他の授業、特に大規模授業における実施可能性の検討は、継続課題とされることを期待する。